

夢

追

い

人

生花店

「花チャン屋」

店長 龍 昌章さん(38)

だと痛感しているから…。



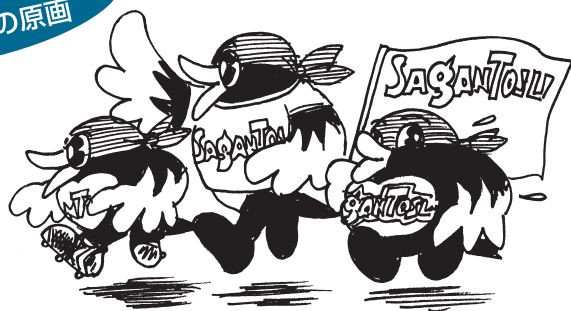
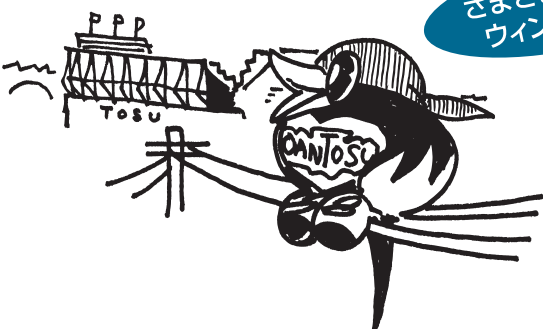
サガン鳥栖のチームマスコット
『ウイントス』



生花店「花チャン屋」を経営する龍昌章(三十八)さんは、プロサッカーチーム(J2)、サガン鳥栖の熱狂的なサポーターである。ゴール裏でカチガラスの手作

り着ぐるみで応援する。それにチームマスコット「ウイントス」の考案者でもある。ウイントスは公募で採用された。「勝ちに通じるように」と願

さまざまなタイプのウイントスの原画



を込めて、カチガラスをデザインしました。」と龍さんは言う。得意のイラストで描いた。頭にバンダナを巻き、サッカーシューズを履き、羽で力強く拳を握っている。

大川が心楽しい明るい雰囲気のある街になることも願っている。
工場の多いスレート色の街にこそ、お花や植物が生活に必要な



胴体はチームカラーの青に合わせ、ピンクのハートが熱い心を表している。ウイントスは昨年のシーズン終わり頃に登場したJリーグマスコット界の新人。Tシャツなどのグッズも販売されている。サガンの公式ホームページでウイントスの写真を見ることが出来る。サッカー好きがこぞうじて、五月一日からの佐賀新聞の連載『甘くち辛くち』の第五期三十七人の新メンバーに選ばれた。新執筆陣は教育、文化、スポーツ、福祉、農業、商工業、医学、国際交流など多彩な分野で活躍する人たちであるが、龍さんはサッカーのエッセイを担当する。

生花店とサポーターとの間には見聞連がないように思えるが、実は密接な関係がある。それは十代の頃にさかのぼる。絵画の勉強でヨーロッパを回り色々な文化に触れることができた。「ピークを過ぎたヨーロッパの人たちは生活を楽しむのがとても上手です。家を花々でかわいく飾り、休みには地元スポーツチームの応援カフェでお茶を飲みながら話題がはずむ。そんな潤いと深みのある文化に引かれました。」

生活を楽しむためにサガン鳥栖のサポーターを始めた。「サガン鳥栖はメインスポンサー、親会社、オーナー、有名選手もいない、ないないづくしチームです。でも

たくさんの仲間と出会い共にサポーターとしてチームを支えられるのは大きな喜びです。このチームに感謝しています。」

大川が心楽しい明るい雰囲気のある街になることも願っている。工場の多いスレート色の街にこそ、お花や植物が生活に必要なと痛感しているからだ。そんな気持ちから店の名前を花ちゃん屋とした。赤ちゃんからおばあちゃんまで、チャンのつく花の好きみなすべの方々に花を届けたいとの気持ちからだ。地元の方々が窓辺に花を飾るような街を目指している。

花とサガン鳥栖のサポーター
龍さんのご健闘を祈ります